荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -

市民を愛する　市民に愛される　病院へ

地域医療連携だより 小岱

第33号
（平成28年10月発行）

地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　脳卒中急性期拠点病院
急性心筋梗塞急性期拠点病院　基幹型臨床研修病院　日本医療機能評価機構認定

ご 挨 拶

病院事業管理者　大嶋壽海

熊本地震から半年が過ぎ去りました。震度7の大地震が4月14日、16日の両日に熊本を襲い、益城町、南阿蘇村など倒壊した家屋などまだ手付かずの被災地が多いようです。熊本のシンボルである熊本城もまた同様な有様のようです。幸いなことに荒尾市では、最大震度5弱でしたが被害はほとんど無く、築48年の荒尾市民病院はエレベーターが止まった程度でした。

さて、本院は、今年の2月に日本医療研究開発機構研究費で「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究」（研究代表：九州大学大学院　総合コホート研究センター　二宮利治教授）（研究期間：平成28年−32年）を荒尾市で行う旨の協力依頼で、熊本大学医学部神経精神科教授（来院当時）池田学先生が本院を訪問されました。

本研究は、精度の高い認知症のコホート研究である久山町研究の豊富な経験と知識を活用し、全国8ヶ所から抽出する地域高齢者1万人からなる大規模認知症コホート研究です。また、経験もノウハウもある九州大学名誉教授 清原裕教授を中心に行われますが、熊本大学神経精神医学分野も加わることになり、熊本大学の研究地域として荒尾市が選ばれました。人口規模5万人強、医療施設間の連携の良好さ、しっかりとした中核病院の存在、市の熱心さなどで、全国8ヶ所の中、九州では久山町と荒尾市の2地域が選ばれています。

熊本大学神経精神医学分野が主となり、荒尾市が全面的に協力をしていく研究で、荒尾市民病院のほか、荒尾市医師会、荒尾市歯科医師会、荒尾市薬剤師会や熊本県地域拠点型認知症疾患センター、有明地域リハビリテーション広域支援センター、そして、荒尾市（高齢者支援課・健康生活課）、熊本県（認知症対策地域ケア推進課・有明保健所）が関わる大規模研究です。

9月30日には、研究代表者の二宮利治 教授のほか九州大学大学院　総合コホート研究センターから4名、熊本大学大学院神経精神医学分野の橋本准教授のほか5名、その他総勢14名の訪問・ご挨拶を受け、あらためてこの研究への協力を確認した次第です。

荒尾市民病院では、看護部、診療技術部、事務部のスタッフが土日交代で、研究会場の提供やMRI撮影、心電図検査など、この研究について全面的に協力を惜しまない姿勢であたります。研究期間は、11月5日（土）から来年7月まで（ほぼ毎土日祝日）の長期間で予定されており、後々、追跡調査も実施されます。本番を目前に控え、10月23日（日）に、当院において、全関係者の代表者らが集まりリハーサルが実施されます。

この研究が円滑に進むことで、今後の荒尾市の認知症高齢者対策など、保健・医療・介護・福祉分野の充実と発展に繋がることを期待し、荒尾市民病院がその一助になればと考えます。

無痛分娩のはなし

今回の診療部からのお話は、本年4月に荒尾市民病院に産科部長として着任された田島朝宇（たじまともたか）先生から「無痛分娩」についてご説明いただきます。

はじめに

今回、地域医療連携だより「小岱」に原稿を掲載していただけるとのお話をいただきました。私は産科部長の職名をいただいておりますが、当院の産婦人科は婦人科メインで今のところ産科の症例はそれほど多くはありません。今後、病院の移転を含めて少しずつ妊娠・分娩に対する環境をより良く整えていければと考えております。

さて、今回は産科にちなみまして無痛分娩のお話をしようかと思います。日本においては無痛分娩自体あまり身近に感じられないかもしれませんが、読んでいただき少しでもイメージしていただくことができたら幸いです。なお、当院におきましては、近日中に無痛分娩が可能になる予定です。

無痛分娩の歴史

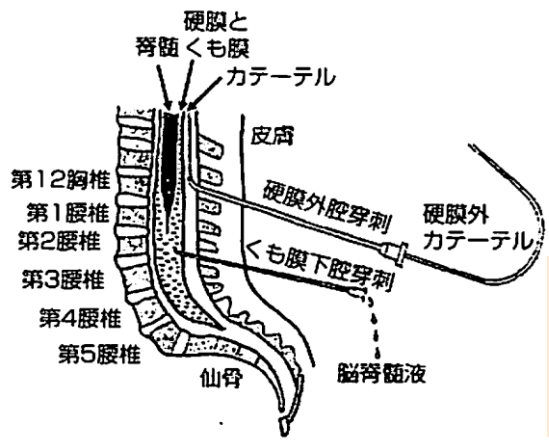
それではまず無痛分娩の歴史についてからはじめましょう。無痛分娩はいつ頃より行われるようになったのでしょうか。

出産の痛みは、アダムとイブが禁断の果実を食べたために神から与えられた原罪であり、それを取り除くことは神への冒涜とされた時代もありました。そういった時代的背景の中でも、中世には薬草やアルコールを用いて、出産の痛みを和らげようとさまざまな試みがなされていました。

1853年、イギリスのヴィクトリア女王がクロロホルム麻酔で出産をしたことをきっかけに英国の教会が無痛分娩を認知し、これをきっかけにしてヨーロッパで無痛分娩が広まりました。1940年代になるとアメリカでは、24時間体制の無痛分娩サービスが開始され、希望者に無痛分娩を行うことはごくあたりまえのこととなっていました。1992年にアメリカ麻酔学会とアメリカ産科婦人科学会は「妊産婦が無痛分娩を要求することは当然の権利である」との共同声明を発表しています。フランスをはじめとする諸外国では産科医療の「集約化」が進んでおり、産科医や小児科医、そして産科専門の麻酔科医が確保されているセンター病院で分娩するのが一般的です。そのため欧米での無痛分娩の普及率は高く、最も普及率の高いフランスでは、実に、妊婦の74％が無痛分娩で出産しています。

無痛分娩の概要

無痛分娩とは、一般的に「硬膜外麻酔による無痛分娩」のことをいいます。背中から細く柔らかい麻酔の管を通してそこから麻酔薬を注入して痛みを軽減させながら行う分娩方法です。



硬膜外無痛分娩　南山堂　より抜粋

無痛分娩のはなし

無痛分娩を行えば痛くないのでしょうか。名前は無痛分娩ですが、全くの無痛になるわけではありません。痛みの指標としてVASスコアと呼ばれるものがあります。左端を「痛みなし」、右端を「想像できる最高の痛み」とした長さ10cmの黒い線を患者さんに見せ、現在の痛みの度合いを指し示してもらう方法です。この方法を用いて分娩時の痛みを表してもらうと、自然分娩を行った妊婦さんの痛みの程度は8から10程度、無痛分娩を行った妊婦さんの痛みの程度は1から3程度となり、痛みは半分以下になると考えることできます。

無痛分娩の長所

痛みが軽減されれば、お産による疲労が少なく、産後の回復が早くなります。赤ちゃんにとってもお母さんの痛みが軽減されることにより赤ちゃんに十分の酸素を届けることができるようになります。妊娠高血圧症候群のような赤ちゃんへの血流が減っているお母さんには無痛分娩はおすすめです。

日本における多くの無痛分娩は、自然な陣痛を待たずに、日取りをあらかじめ決め、薬で陣痛を起こして計画的に分娩を行います。結果、いつ陣痛が始まるかなど、出産への恐怖やストレスが軽減され、心の準備ができやすく、安心して分娩にのぞむことができます。

無痛分娩の短所

無痛分娩の短所としては、使用する麻酔薬により皮膚のかゆみ、低血圧、体温上昇、頭痛や吐き気などの副作用が出てしまう場合があります。麻酔医が細心の注意をはらって麻酔を行うこととなりますが、副作用が出てしまう可能性は否めません。また、極まれなケースではありますが、硬膜外麻酔が髄液や血管にはいってしまい、麻酔が上半身に広がってしまうことによる呼吸困難や、舌や唇のしびれ、ひきつけなどを起こすことがあります。ただし、すべて適切な対処法は存在しています。その他には、普通分娩の妊婦さんよりも分娩時間が長くなります。ただし、赤ちゃんが元気に産道を降りてきていれば、分娩時間の延長は問題ないと考えられています。

最後に

荒尾市民病院は産科医、小児科医、麻酔科医が確保されており、無痛分娩を行う環境が整っております。また、当院での無痛分娩は安全性を重視した計画分娩で行うことになります。

以上、説明させていただきましたが、いかがでしょうか、何となくでもわかっていただければ幸いです。疑問に思ったこと、聞きたいことなどありましたら遠慮なくたずねてみてください。

産科部長
田島　朝宇（たじま　ともたか）
産婦人科
日本産科婦人科学会　産婦人科専門医　日本医師会認定産業医

おしらせ

MRI装置が新しくなりました

8月1日よりMRI装置（超電導磁気共鳴画像診断装置）が新しくなりました。

◆PHILIPS社製Ingenia1.5Tの中で最上位機種で、外観はマグネットにLEDが埋め込まれるなど、患者さんの恐怖心を軽減する外観となっています。
　また、画質SNR（信号雑音比）が向上し、ノイズが減り画像が鮮明になり、また、広範囲な撮影や両側乳房の高分解能撮影など、病変部位の詳細な画像を得ることができ、検査時間も大幅に短縮されました。

MRI装置が得意とする主な検査
◆脳の検査（脳腫瘍・脳梗塞・脳萎縮・脳血管の奇形など）
◆腹部の検査（肝臓・膵臓・胆嚢・腎臓・胆管の拡張や狭窄・胆石など）
◆乳房の検査（マンモグラフィより更に精密な乳がん検査）
◆前立腺の検査（前立腺肥大・前立腺がん）
◆脊椎・四肢の検査（頸椎・胸椎・腰椎ヘルニアなど）
◆心臓の検査（冠動脈・狭心症の診断など）

　今回の装置更新で画像解析のアプリケーションソフトやMRI機能がグレードアップし、より診断価値の高い画像情報を得ることができるようになりました。
是非、ご利用いただきますようお願いいたします。

《病院理念》

荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、暖かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

《患者様の権利と責務》

1. あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。
2. あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。
4. あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。
5. あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。
6. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さまご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。
7. 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。
8. 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市民病院　地域医療連携だより「小岱」 第33号　　平成28年10月発行
発　行：荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
連絡先：〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600　TEL0968-63-1115（内線536・537）　Fax：0968-62-4543
メールアドレス　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp